

# かんぽ生命のインパクト“K”プロジェクト

～インパクト投資に関する勉強会資料～

2022年6月



かんぽ生命

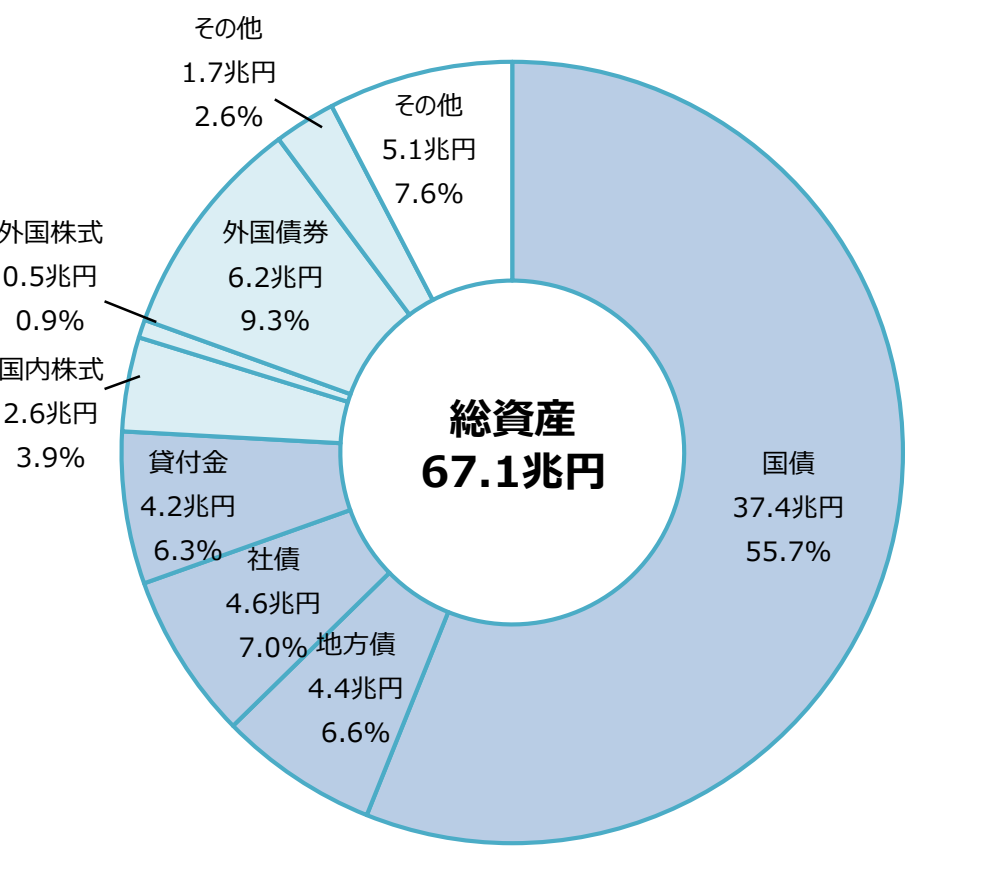
# 資産運用の概要

- 当社の2021年度末の総資産は、67.1兆円となっています。
- 資産構成は、国債を中心とした公社債が46.5兆円、株式や外国債券を含む収益追求資産が11.2兆円、貸付金が4.2兆円等となっています。

資産残高（2021年度末）

		22.3末	
		金額（億円）	占率
	公社債	465,635	69.3%
	国債	374,089	55.7%
	地方債	44,626	6.6%
	社債	46,918	7.0%
	収益追求資産 <sup>1</sup>	112,283	16.7%
	国内株式 <sup>2</sup>	26,145	3.9%
	外国株式 <sup>2</sup>	5,861	0.9%
	外国債券 <sup>2</sup>	62,799	9.3%
	その他 <sup>3</sup>	17,477	2.6%
	貸付金	42,519	6.3%
	その他	51,309	7.6%
総資産		671,747	100.0 %

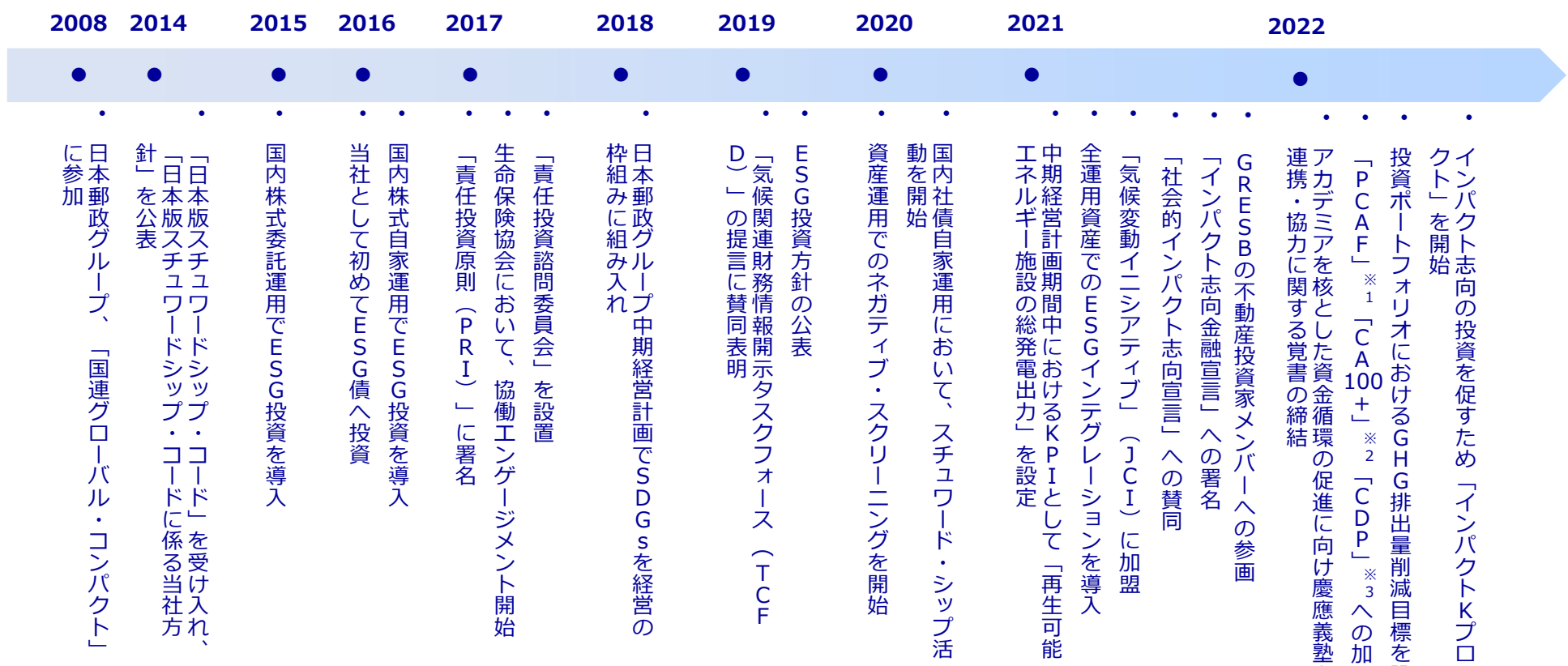
資産構成（2021年度末）



1. 収益追求資産は、貸借対照表上「金銭の信託」および「有価証券」に計上している資産のうち、資産運用目的で保有する国内外の株式、外貨建債券、投資信託等を対象としている  
2. 「国内株式」、「外国株式」および「外国債券」には、個別銘柄の株式・債券のほか、それぞれの資産のみを投資対象とする投資信託を含む  
3. バンクロン、マルチアセット、不動産ファンド、プライベート・エクイティ、インフラ・エクイティ等

# ESG投資に対する当社の取組み実績

- 当社は、2016年以降、本格的に運用におけるESGの取組みを開始しました。
- 2021年度からは、全運用資産でのESGインテグレーションの導入を皮切りに、TCFD提言などに沿ったESG投資方針の改正、国内外のイニシアチブへの参画、インパクト志向の投資の実現など、ESG投資に対する取り組みを加速。
- ユニバーサルオーナーとして、運用パフォーマンスの最大化を追求しながら、持続的社会的の実現に貢献する投資活動を推進。



※ 1 金融機関の投融資を通じた間接的なGHG排出量を計測・開示するための取組みを行う国際的なイニシアチブ  
※ 2 協働エンゲージメント（企業との対話）を通じて、気候変動への対応を求める国際的な投資家イニシアチブ  
※ 3 機関投資家の立場から環境関連情報の開示および環境課題の解決を促す国際イニシアチブ

# ESG投資に対する基本的な考え方

- 当社は、長期的な運用を行うユニバーサルオーナー(※)として、全運用資産を対象にESG要素を考慮した資産運用を行うことで、持続可能な社会の実現と長期的な投融資成果の向上に取り組んでいます。
  - 「Well-being」「地域と社会の発展」「環境保護への貢献」を重点取り組みテーマとし、かんぽ生命らしい“あたたかさ”の感じられる投融資を促進しています。
- ※投資額が大きく、資本市場全体に幅広く分散して運用する投資家

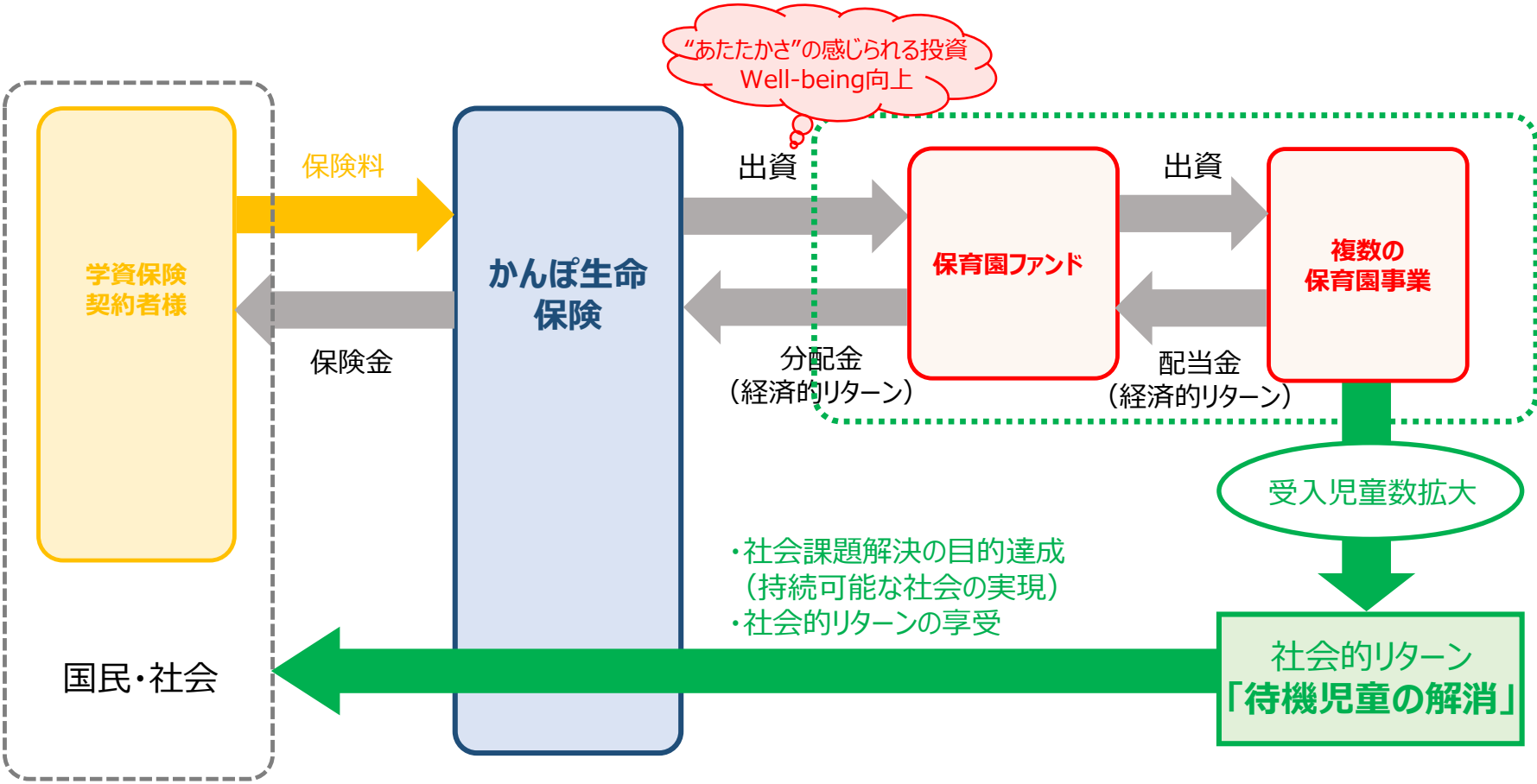
重点取り組みテーマ			ESG投資の枠組み	
Well-being ①	地域と社会の発展	環境保護への貢献	ESG インテグレーション	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 全運用資産を対象としてESGインテグレーションを導入。</li><li>✓ 投融資の判断において、財務情報に加え、投融資先のESGに対する取り組みを総合的に評価。</li></ul>
			エンゲージメント ・株主議決権行使	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 投融資先とエンゲージメント（目的を持った対話）を実施し、ESG課題に対する取り組みを促す。</li><li>✓ 株主議決権行使は、ESG要素を含む非財務情報や対話等の状況なども考慮。</li></ul>
			テーマ型投資 ・インパクト投資	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 重点取り組みテーマを念頭に、ESGテーマ型投資、インパクト投資を推進。</li><li>✓ インパクト志向の投資を促すため、かんぽ独自のフレームワークであるインパクト“K”プロジェクトを開示。</li></ul>
			ネガティブ・ スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 非人道的兵器を製造する企業への投融資や、気候変動への影響が懸念される石炭火力発電に係る国内外の新規のプロジェクトファイナンスは行わない。</li></ul>

かんぽ生命らしい“あたたかさ”の感じられる投融資の推進

# 保険会社の資産運用と社会的リターン

- 生命保険会社は、保険契約者様の大切な保険料を原資として長期的な資産運用を行っています。
- 長期的な資産運用が、持続可能な社会の実現に資するよう、経済的リターンと社会的リターンの両立を目指します。

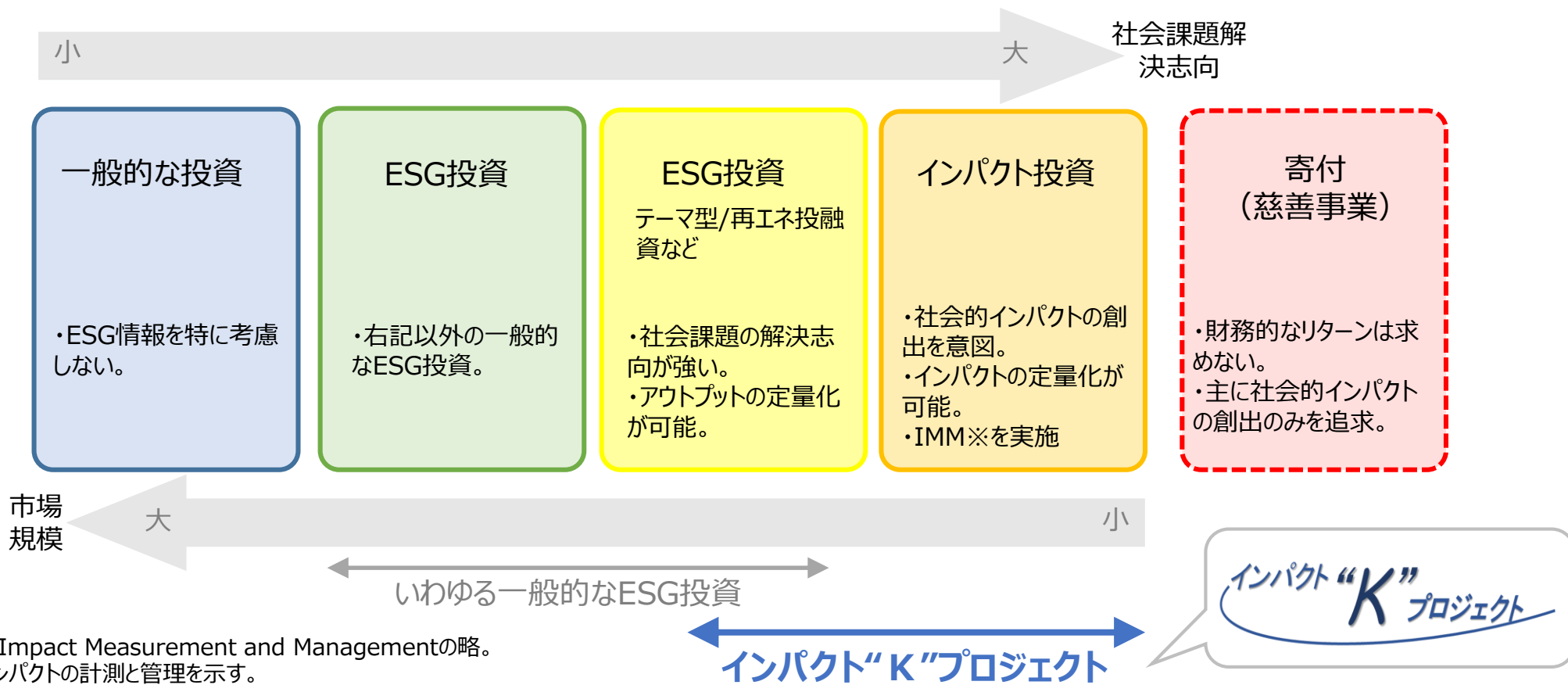
【生命保険会社と社会的リターンの関係（例：学資保険と保育園ファンド）】



# 【インパクト”K”プロジェクト】インパクト投資拡大への取り組み

- 当社は、インパクト志向の投融資を拡大するため、かんぽ生命が独自に定める投資のフレームワークであるインパクト”K”プロジェクトを立ち上げました。
- インパクト”K”プロジェクトの投資先は、インパクトの創出を意図し、それに繋がるアウトプット等をKPIとして設定する必要があります。純粋なインパクト投資のIMM※要件を柔軟にとらえ、かんぽ生命に適した投資規模を目指します。

## 【インパクト”K”プロジェクトの投資範囲】



※Impact Measurement and Managementの略。  
インパクトの計測と管理を示す。

# 【インパクト“K”プロジェクト】社内認証の実施

- インパクト“K”プロジェクトによる投資について、社内認証を実施します。社内認証は、同フレームワークの透明性の確保に加え、インパクト・ウォッシュ回避やネガティブ・インパクトの管理・確認を企図したものです。
- 社内認証には「確認シート」への記入が必要とされます。一般的な投資概要のほか、どのようなKPIを設定するのか、KPIがインパクトにどう繋がるのか、ネガティブインパクトへの対応方法などの内容が含まれます。
- 「確認シート」の記入により、客観的な検証に基づくポジティブ・インパクトの創出を伴う投資実行が可能となるだけでなく、投資実行後もモニタリングやエンゲージメントのベースとすることを想定しています。

## 【インパクト“K”プロジェクト「確認シート」イメージ※】

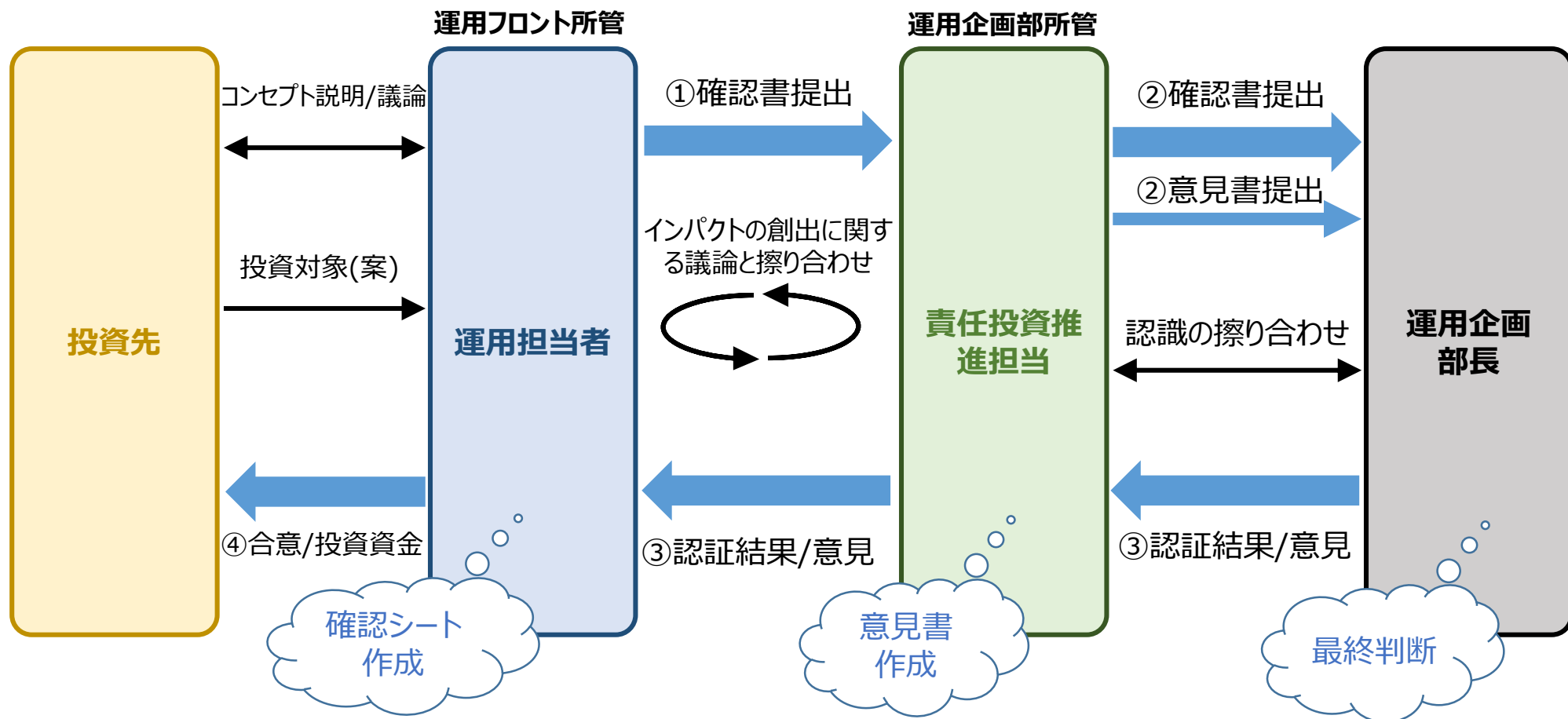
必要項目	具体的な記載内容
投資の概要	発行体名
	プロジェクト概要（社会課題や対象者等）
	資金使途/投資額（プロジェクト全体と当社）
ロジックモデル	ポジティブ・インパクトに繋がるロジックツリー
定量成果指標	アウトプット/アウトカム/インパクト（選択）
	定量成果指標（KPI）の内容説明
	定量成果指標（KPI）の算出方法
定量成果指標のマネジメント	KPI管理方法（エンゲージメントなど含む）
	KPI確認手段や頻度
ネガティブ・インパクト	ネガティブ・インパクトのリスクと対応方法
運用担当者コメント（GK,ファンドマネージャー等）	-
その他特記事項	-

※全ての項目を網羅している訳ではない。

# 【インパクト”K”プロジェクト】社内認証のプロセス

- 運用担当者が「確認シート」を作成し、責任投資推進担当へ認証を依頼。責任投資推進担当が内容を確認した上で、意見を付した上で運用企画部長に認証の決定を依頼する。

【インパクト”K”プロジェクト「社内認証」イメージ※】



※ 運用担当者による通常の投資プロセス（インパクト投資の認証プロセス以外の部分）の記載は割愛している。



# 【インパクト“K”プロジェクト】取り組み事例

- コモンズ投信との上場株インパクトファンドについては、100億円のコミットメント契約を締結しました。
- その他、PEでは国内インパクトプログラムを設定。アカデミアとの提携による案件も投資対象として想定しています。

## 【インパクト“K”プロジェクトに関するプレスリリース※】

### 学校法人慶應義塾とのESG投資の推進に向けた連携・協力に関する覚書の締結 ～Well-Being向上とアカデミアを核とした資金循環の促進～

経営・財務など

2022年01月21日

株式会社かんぽ生命保険（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 千田哲也、以下「かんぽ生命」）は、Well-Being向上とアカデミアを核とした資金循環の促進に向けた連携・協力を行うため、学校法人慶應義塾（東京都港区、理事長 伊藤公平、以下「慶應義塾」）と2022年1月21日に覚書を締結いたしました。

慶應義塾は、「すべての人の健康で幸福な人生の達成」に寄与するという理念のもと、医療やデータサイエンスなどの知識や技術の高度化に取り組んでおり、互いに描く未来社会のビジョンに共感したことから、覚書の締結に至りました。

今後、かんぽ生命と慶應義塾は、インパクト投資領域を中心として、慶應義塾の研究成果を活用したベンチャー企業を対象とした資金供給に関する検討など、相互に連携・協力し、共に社会課題解決とイノベーション創出の実現に努めてまいります。

かんぽ生命は、すべてのステークホルダーの皆さまに対する社会的責任を果たすという観点から、全運用資産に対しESGを考慮し、持続可能な社会の実現と長期的な投資成果の向上・リスク低減を目指して、ESG投資に取り組んでおります。

今後も、かんぽ生命らしい「あたたかさ」の感じられる投資を通じて、広くSDGsの目標達成や社会課題の解決に貢献してまいります。

<学校法人慶應義塾について>

慶應義塾は1858年、福澤諭吉が江戸に開いた蘭学塾から始まりました。創立から160年を超え、現在は小学校から大学・大学院までを擁する、日本で最も長い歴史を持つ総合学塾として幾多の人材を輩出しています。学園、とくに「実学」の重要性を説いた福澤の志と理念を受け継ぎ、教育、研究、医療を通じた社会へのさらなる貢献を目指します。

詳細は下記URLよりご覧ください。

<https://www.keio.ac.jp/> 

### 国内上場株式を投資対象とした「コモンズ・インパクトファンド」への投資 ～コモンズ投信と共に創るインパクト投資の実現～

経営・財務など

2022年05月23日

株式会社かんぽ生命保険（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 千田哲也、以下「かんぽ生命」）は、このたび、コモンズ投信株式会社（代表取締役社長 伊井哲朗、以下「コモンズ投信」）が運用する、国内上場株式を投資対象とした「コモンズ・インパクトファンド」（以下「当ファンド」）に投資することとなりましたので、お知らせします。

当ファンドは、社会的インパクトの創出に積極的に取り組む国内企業に長期的な視点で投資を行い、社会的リターンと経済的リターンの両立を目指すものです。

アセットオーナーであるかんぽ生命が重視する「Well-being向上」「地域と社会の発展」「環境保護への貢献」をテーマとし、アセットマネージャーであるコモンズ投信及び投資先候補企業との対話を通じ、事前に社会課題解決に向けたKPIを確認のうえ、投資することで、三者で社会的インパクト創出に取り組みます。

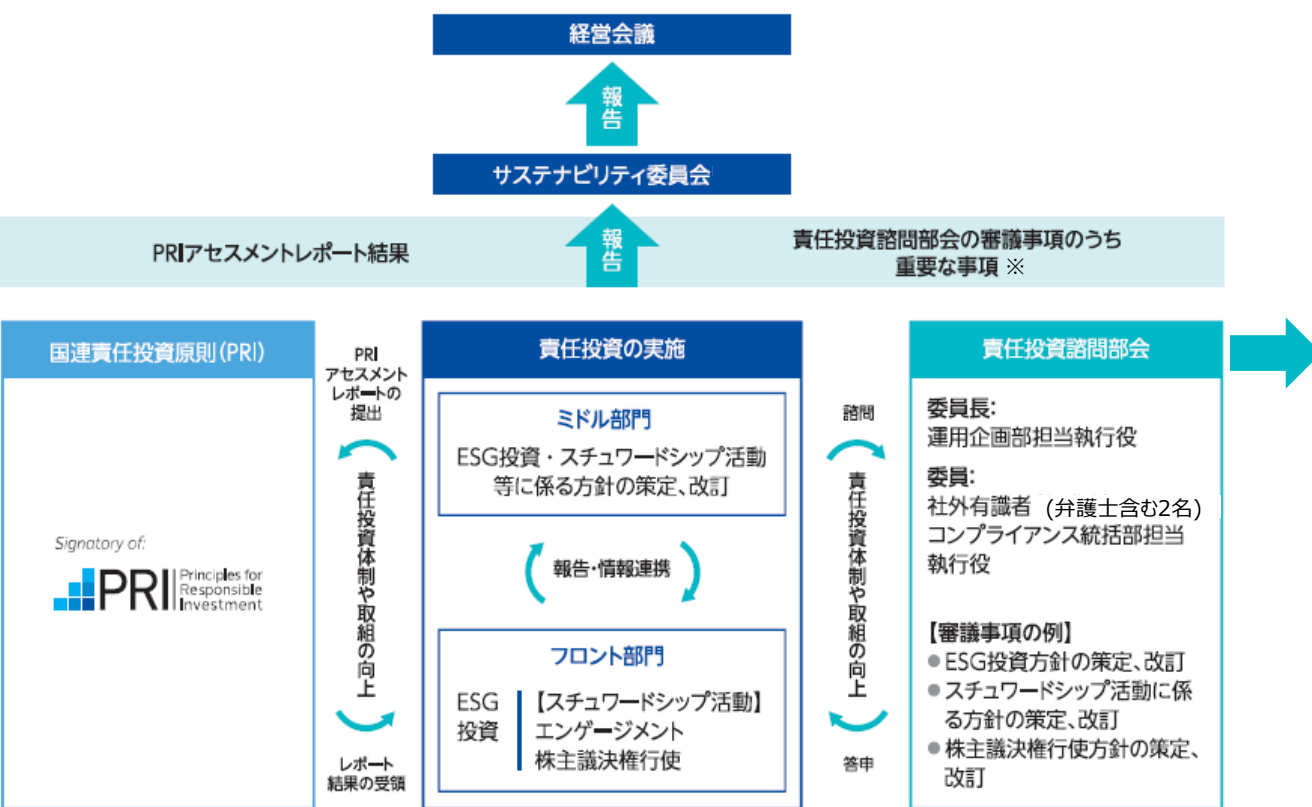
かんぽ生命は、インパクト投資をESG投資の重要な枠組みのひとつとして位置付け、推進しています。インパクトを創出する意図があり、そのためのアウトプット（組織や事業の活動がもたらす製品、サービスなど）やアウトカム（アウトプットがもたらす変化、便益、その他効果）をKPIとして明確化し、測定する投資について「インパクト“K”プロジェクト」として認定することとしており、本件はその第1号案件となります。

※ プレスリリースの一部を表示している。

# 責任投資推進体制（責任投資諮問部会の設置）

- 当社では、2017年5月、日本版スチュワードシップ・コード（「責任ある投資家」の諸原則）に利益相反を阻止するためのガバナンス体制整備に関する指針が追加されたことを踏まえ、同コードに適切に対応するため、「責任投資諮問部会」の前身である「責任投資諮問委員会」を2017年8月に設立しました。
- 責任投資諮問部会の役割は、株主議決権行使等に影響を及ぼす利益相反に関する事項や機関投資家としての社会的責任を踏まえた投資に資する事項について、“客観的かつ専門的な審議”を行うことを目的としています。

## 【かんぽ生命の責任投資推進体制】



## 【責任投資諮問部会での主な審議事項】

- スチュワードシップ活動について
  - ✓ スチュワードシップ活動方針について
  - ✓ 株と社債のエンゲージメント実施状況
  - ✓ 株と社債での重複保有銘柄に関する担当間の利益相反回避状況
- 株主議決権行使について
  - ✓ 株主議決権行使方針・基準について  
例）政策保有株式、取締役の選任、ESG関連議案への対応など
  - ✓ 株主議決権行使状況
- ESG投資の推進について
  - ✓ ESG投資方針について
  - ✓ ESGインテグレーション手法について
  - ✓ 投資ポートフォリオの脱炭素化について
  - ✓ インパクト投資の推進について

※スチュワードシップ活動や株主議決権行使などの利益相反の恐れがある審議事項以外で、全社的な観点から重要な事項については、協議を行う。